# 2025年杉並区議会第3回定例会を終えて(談話)

2025年10月15日

日本共産党杉並区議団 幹事長 山田耕平

杉並区議会第3回定例会は、9月9日に開会、10月15 日までの約一カ月に及ぶ議会となりました。今定例会では、 岸本区政で2度目の本格予算となる2023年度(令和6 年度) 杉並区一般会計等の決算審査も行われました。

岸本区政のもとで、どのような区政運営が行われたのか、

各会派の論戦が活発に行われました。

党区議団は、物価高騰が長期化・深刻化するなか、区民の くらしと営業を守るために力を尽くすとともに、岸本区政 の前向きの変化をさらに加速させる立場で論戦に臨みまし た。

#### 1、党区議団(富田・酒井・山田)の3議員の一般質問 多くの前向き答弁引き出す

# (1)公契約条例の改善へ前進 労働報酬の適正化と長期継続契約見直しで区が新方針

#### 現場労働者の賃金確保へ区が事業者に要請強化 長期継続契約の見直しで労務費上昇に対応

富田議員は公契約条例に基づき、現場労働者の労働環境 と賃金の改善を求めました。区は「設計労務単価や労働報酬 下限額に応じた適切な賃金の支払いを、事業者団体等に引 き続き要請していく」と答弁。区は、建設業における労働環 境の向上を「人材確保のみならず地域経済の活性化にも関 わる重要課題」と位置づけ、意見交換の場などを通じて働き かけを継続する姿勢を示しました。

さらに、長期継続契約の問題に触れ「物価高騰による労務

費上昇で、実際の報酬が区の下限額を下回るケースが生じ ている」と指摘し、改善を求めました。これに対し区は、長 期継続契約の運用を見直し「労務費の変動に応じて契約金 額を変更できるようにする」との方針を明らかにしました。 スライド条項の導入により、実勢価格に見合った賃金を確 保できる仕組みへの転換が期待されます。

公契約条例を実態に即して改善し、現場労働者の適正報 酬を確保するための重要な一歩といえる内容です。

## (2)介護の人材不足と経営悪化に対して、区独自の介護事業所支援を求める

#### ・介護サービス事業所の支援「来年度予算案に反映」 補聴器購入費助成の見直しへ

国による報酬削減が影響し、介護人材の不足や事業所の 廃業が全国で深刻化しています。酒井議員は、区内事業所か らの声を紹介し、世田谷区や品川区のように区独自の支援 策を求めました。岸本区長は「実態調査の結果を踏まえ、区 独自に実施すべき支援内容を検討・具体化するよう指示し た。必要な支援策を令和8年度当初予算案に反映していく」 と答弁。介護基盤を守るための支援検討が示されたことは、

党区議団が求め続けてきたものであり、重要な前進です。区 長が掲げる「ケアする人をケアする」方針のもと、今後も介 護職員への支援拡充が期待されます。

酒井議員は高齢者の補聴器購入費助成の拡充を要望。区 は「助成額が他区より低く、自己負担が高い。見直しの検討 ポイントと認識している」と述べました。補聴器購入費助成 の見直しに向けて、さらなる増額を求めます。

#### (3) 住民とともに考えるまちづくりへ 都市計画道路見直しに新たな展望

## 「地域資源を未来へ」対話を重ね、住民と共に描く杉並のまちづくりへ

山田議員は、都市計画道路・外環道・水害対策・善福寺川 上流調節池など、区政運営上の重要課題を取り上げました。 東京都が今後15年間の「優先整備路線」として検討を進 める都市計画道路については、住民生活や地域の将来に直 結する重大な問題として、住民との丁寧な協議と計画見直 しの検討を求めました。

杉並区はこの間、道路整備の「効果」を中心に評価を行っ てきましたが、山田議員は「商店街の賑わいや街並み、歴史・ 文化などの地域資源が評価されていない」と指摘。こうした 地域の魅力をどう捉えるのかを区長に質しました。

岸本区長は「商店街の魅力や街並み、歴史や文化は区民生 活にとってかけがえのない地域資源であり、未来に引き継 ぐことはまちづくりにおいて重要」と答弁。これまでの区政 運営では行政と住民の「対話の場」が不足していたとし、(仮 称) デザイン会議などを通じて住民の声を反映し、必要に応 じて専門的な調査も検討するとしました。都市計画道路を 前提とせず、住民と共に地域資源を生かしたまちづくりを 検討することは、岸本区政のもとでの大きな前進です。

#### 2、補正予算第3号可決 物価高騰に直面する区内事業者を支援 福祉施設に食材費・光熱費等を助成

補正予算には物価高騰対策として、都の支援対象外とな っている区内の介護サービス事業所に対し、区独自に4~ 9月分の食費や光熱費の一部を補助する経費が計上されま した。党区議団は、人手不足や介護報酬引き下げで現場が厳 しい状況にある中、区独自の支援を求めてきました。今回の 補正予算にその経費が盛り込まれたことは重要な成果で す。補正予算には、介護・障害者施設への支援のほか、高齢 者へのスマートフォン購入助成、がん患者ウィッグ購入費 助成の拡充など計28事業が含まれます。特に、ウィッグ助 成は申請が多く、がん患者の方々にとって、大変ニーズが高 い事業であり、拡充は大きな意義があります。

#### ■表1.『議案第66号 令和7年度杉並区一般会計補正予算(第3 是) Iに対する替本 (替成30: 反対15)

ちり.	与別に対する其首(其成30・反対13)														
会派;	自民	共産	立憲	公明	シ杉	維無	無都	安心	参 政	革新	セン	杉わ	無	杉ク	f r
数	8	6	6	6	5	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
<b>賛</b> 否	×	0	0	0	04 ×1	O2 欠1 議長1	0	0	×	×	×	×	×	0	×

| 「競技」 | 「競技」 | 「競技」 | 「大学では、メータが、退ノ退席、欠/欠席、除斥/本人が懲罰事犯者のため表決に加われない。「雑無」は1名が議長の為、賛否は3名のみ表明。 | 【会派の正式名称】自民/杉並区議会自由民主党、共産/日本共産党杉並区議団、立憲/立憲民主党杉並区議団、公明/杉並区議会公明党、シ杉/シスターフッド杉並、維無/維新・無所属議員団、無都/無所属・都民ファーストの会、安心/安心・安全杉並の会、参政/参政党杉並、革新/都政を革新する会、セン/杉並をセンタク致し候、杉む/杉並わくわく会議、無/無所属(堀部)、杉ク/区政杉並クラブ、fr/far right。(2025(R07)年10月15日現在)

#### 3、決算審査 令和6年度杉並区一般会計歳入歳出決算を「認定」 区民の声生かす区政へ前進

党区議団は、令和6年度杉並区一般会計歳入歳出決算に ついては「認定」、国民健康保険・介護保険・後期高齢者医

療の各特別会計については「不認定」としました。

#### (1) 対話と自治のまちづくりが前進 住民との協働による区政運営が根付き始める

党区議団は「認定」の理由として、区民参加型の行政運営 の進展を挙げました。年間 130 回を超える区民対話の場が 設けられ、延べ5,000人以上が参加。区民意向調査でも住民 の区政参画意欲が高まり「対話の区政」が根づき始めていま す。

区立施設マネジメント計画の策定では、地域住民とのワ ークショップを通じて、行政主導から住民との協働型へ計 画策定プロセスを転換した点を評価。都市計画道路周辺の

#### (2) 防災施策の強化と地域防災の充実

耐震診断・改修助成が大幅に増加し、耐震化率が 95.6% に達したことは重要です。不燃化率も過去最大の伸びを示 しました。 感震ブレーカー助成が 1,200 台を超え、エレベー ター備蓄ボックスの配備や防災マップの全戸配布など、岸

#### (3)子どもの権利条例や居場所づくり基本方針、福祉施策が大きく前進

当該年度は「子どもの権利に関する条例」「子どもの居場 所づくり基本方針」が制定されました。子どもの意見を聴き 取った上での計画策定は画期的であり、児童館再整備の早 期実現を求めました。

#### (4) 多文化共生と人権尊重、働きやすい職場環境へ

「多文化共生基本方針」の策定により、外国人支援と差別 防止の姿勢を明確にしたことを評価しました。「ヘイトスピ ーチは許さないという区の姿勢を一層明確にすべき」と求 めました。

#### (5)教育と気候危機対策の推進

区立小中学校の給食費無償化に続き、国・私立や不登校児 童への給食費相当分支給が実施されたことは「教育の平等」 の実現として重要です。一昨年度に引き上げられた就学援 助基準のさらなる拡充を求めました。学校トイレ洋式化率 の上昇、教員確保の取組も評価しました。

気候危機対策では、再生可能エネルギー導入助成が3倍 以上に拡大。太陽光発電や蓄電池の導入が大幅に進み、住民 参加の「気候区民会議」の取り組みも先駆的と評価しました。

#### (6)特別会計については「不認定」

国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療保険の各特別会 計については「不認定」としました。

国保料は十数年来、最大規模の値上げとなり、区民生活に

#### 4、田中ゆうたろう議員の SNS 上における「岸本区長の学歴詐称疑惑」は根拠の無い偽情報 直ちに削除・訂正を求める

田中ゆうたろう議員は10月6日の決算特別委員会で岸 本区長の学歴について質疑しました。区長は、日本大学を卒 業している旨を明言し、必要であれば「卒業証明書を提示可 能」と答弁。区職員も卒業証明書を確認済みと答弁しました。 それにもかかわらず、田中議員は翌7日夜、自身の SNS 上 において「岸本区長の学歴詐称疑惑」などと発信し、あたか

まちづくりにおいても、行政と住民が対等に協議する「デザ イン会議」の設置を「住民自治の新たな形」としました。

一方で、善福寺川上流地下調節池整備事業については、東 京都によって「住民合意のないまま事業化された」と指摘、 区が東京都に対して住民の立場で説明責任等を求めるよう 要望しました。また、阿佐ヶ谷駅北東地区の杉並第一小学校 改築では、子どもの安全を最優先に病院跡地問題の早期解 決を求めました。

本区政のもとで災害対策が前進しています。また、グリーン インフラの推進により、雨水を地中に浸透させる「流域治水」 型のまちづくりに向けた連携が始まった点を「今後の防災 の方向性を示すもの」と評価しました。

また、保育所における人件費の実態調査や障害児支援の 拡充、生活保護制度の周知ポスター作成などを「福祉行政の 前進」と評価しました。介護職員の処遇改善に向けた委託費 増額も「ケアする人を支える政策」として重要です。

また、会計年度任用職員の報酬引き上げや生理休暇の有 給化(23区初)を「ジェンダー平等施策の前進」とし、管理 職の女性比率の上昇や、生理用品の無料配布拡大などを評 価し、さらに前進させることを求めました。

# ■表2.『認定第1号 令和6年度杉並区一般会計歳入歳出決算』 の認定に対する賛否 (賛成26:反対19)

会派:-	自民	共産	立憲	公明	シ杉	維無	無都	安心	参政	革新	セン	杉わ	無	杉ク	f r
数	8	6	6	6	5	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1
 賛 否	×	0	0	0	0	〇2 欠1 議長1	×	0	×	×	×	×	×	×	×

- 【会派の正式名称】自民/杉並区議会自由民主党、共産/日本共産党杉並区議団、立憲/立憲民主党杉並区議団、公明/杉並区議会公明党、シ杉/シスターフッド杉並、維無/維新・無所属議員団、無都/無所属・都民ファーストの会、安心/安心・安全杉並の会、参政/参政党杉並、革新/都政を革新する会、セン/杉並をセンタク致し候、杉わ/杉並わくわく会議、無/無所属(堀部)、杉ク/区政杉並クラブ、fr/far right。(2025(R07)年10月15日現在)

深刻な影響を与えています。介護・高齢者医療も同様に保険 料の負担増が続いており、「国・東京都に対して財政支援を 求め、区民負担を軽減すべき」と強調しました。

も区長が学歴を偽っているかのような印象を与える投稿を 行いました。この投稿は、議会での公式答弁に反する内容で あり、事実を誤認させ、区政および区議会への信頼を著しく 損なうものです(※岸本区長のHP上に卒業証明書が掲載さ れています)。党区議団は決算質疑や意見開陳の場で、田中 議員に対して投稿の削除・訂正を求めました。

## 5、無所属都民ファーストの会が非交渉会派へ 安斉議員が会派を離脱し一人会派へ 議会体制変更へ

無所属・都民ファーストの会 (無都会派) は、安斉あきら 議員の離脱により所属議員が3名となり、交渉会派の要件 となる4名を満たさず、非交渉会派となりました。安斉議員 は離脱後「杉並区議会国民民主党」として一人会派を結成。

無都会派は田中ゆうたろう議員への懲罰特別委員会を欠 席するなど、議会運営の正常化に後ろ向きな姿勢を示して いました。党区議団は引き続き、議会の健全な運営と正常化 に全力を尽くす決意です。